

❀ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ❀

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 中学校生徒図書委員交流会が実施されました

第59回福岡市中学校生徒図書委員交流会が、8月8日（火）あいれふで行われました。

この交流会は、福岡市内の中学校の図書委員会の生徒が、学校の図書館紹介をしたり、図書委員会の活動について意見交換をしたりして、今後の活動に生かすものです。

はじめの図書館紹介では、2つの中学校がそれぞれ図書館の様子や図書委員会の活動について話をしました。

図書委員会の活動では、朝読書の推進や学級文庫の管理などを行っていること、課題は、図書館に来る人や本を借りる人が固定化していることなどでした。このため本の紹介カード作ったり、図書館の入口に開館時間を表示したりして、来館者を増やす取り組みをしているということでした。

次に、4つの中学校の代表者による「ビブリオバトル」がありました。この「ビブリオバトル」とは、「知的書評合戦」とも呼ばれているもので、それぞれが推薦する本を持ち寄って、その本の良さについて5分間程度でプレゼンテーションをし、その後、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決定する書評イベントです。代表の生徒は、原稿も見ずに自分が読んだ本の感動したところや自分の将来の夢などを、自分の経験や世の中の様子を交えながら、5分間の持ち時間ぎりぎりまで、一生懸命に読んだ本を推薦していました。一人が推薦を



（本を見せてのプレゼンテーション）



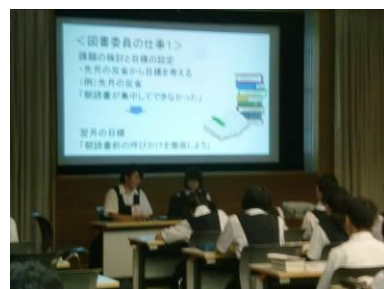
（発表者に質問）

終わるごとに質問がありました。質問は、「どうしてその本を読もうと思ったのですか。」「気に入った場面や言葉はありましたか。」など、いろいろありました。発表者が、本をしっかり読んでだけでなく、自分のこれまでの生活や考え方を振り返りこれらの生き方まで深く考えていることにとても感心しました。

次の意見交換は、一グループ6人で、それぞれの学校の図書委員会が工夫している点や困っている点について話し合いました。工夫している点は、ポップを作り掲示していることや貸し出し・返却コンクールをしていることなどで、困っている点は、利用者が少ないことや返却期限を守らない人がいることなどが上げられました。



（学校指導課挨拶）



（学校の図書館紹介）

意見交換の最後に、グループ毎に、出された意見を全体に発表しました。発表された意見は、記録係の生徒が分かりやすく前方のホワイトボードに書いていました。初めて顔を合わせた生徒同士でしたが、積極的に説明したり質問したりしている姿に、同じような悩みを抱え取り組みをしている生徒の仲間意識を感じました。また、記録係の生徒が、全体会での発表を簡潔に分かりやすく書いていることにも感心しました。



(用紙に見せながら書いたことを説明)



(意見交換)



(用紙に書かれたことへ質問)



(グループの意見を全体発表)



(グループの意見をホワイトボードに書く)



(講 評)

最後に講評があり、中学校生徒図書委員交流会が終わりました。図書委員会の一人ひとりが、図書館の活用を今以上に活用するにはどうしたらよいかということを真剣に考え、他校の実践を自分の学校の活動に生かそうという真摯な姿勢が見られました。

Hello! 学校図書館

今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

《高取小学校》

高取小学校は、36学級、1208名の大規模学校です。PTAの読み聞かせだけでなく、季節に応じた掲示物や近隣施設での催し物の紹介をした掲示物、また、用務員の先生で作成した書架、図書館前の廊下を活用するなど、素晴らしい図書館をつくっています。

○ 図書館の全体の様子



(すっきりしているカウンターとカウンター付近)



(書架と学習スペースと区別された図書館)

○ 季節に応じた掲示物



「せかいのまつり」という内容で日本では、博多山笠、アメリカの独立記念日の祭り、スペインの祭りなどの説明を世界地図と一緒に、掲示しています。



「もうすぐ夏」という内容で「うみのにじ」「サンゴの海」などの本の表紙とともに、魚やヒトデ、朝顔などの飾りを周りに掲示しています。

○ 近隣施設での催し物の紹介をした掲示物

「黄金のファラオと大ピラミッド展」が、7月8日～8月28日まで福岡市博物館で開催されました。そこで、福岡市博物館に近い高取小学校では、ピラミッドや象形文字などのエジプトに関連した内容を掲示していました。



(掲示板のまわり)



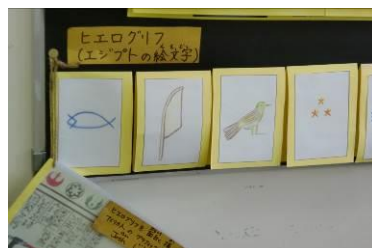
(本物そっくりの黄金のマスク)



(エジプトの場所)



(世界一を当てるピラミッドのクイズ)



(エジプトの絵文字の説明)



(象形文字を面白く描いた作品紹介)

○用務員の先生の手作り書架



(書架の端にも本の展示ができる大型の書架)



(縦長の「100かいだてのいえ」の本を専用に着く書架)



(書架の背板が棒状のため図書館を明るい雰囲気になっている)



(本の大きさに合わせて置ける書架)

♪ 福岡アジア美術館 「10月の案内」

* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ：(10月)

8日(日), 10日(火), 22日(日), 24日(火) (福岡アジア美術館での読み聞かせ)

- ・時 間: 11:30~12:00 13:00~13:30
- ・場 所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「10月の案内」

* 毎月のお話し会：(10月)

1日(日), 7日(土), 8日(日), 14日(土)

15日(日), 21日(土), 22日(日), 28日(土), 29日(日)

- ・時 間: 土曜: 14:30~(幼児向け)
日曜: 14:30~(幼児向け), 15:15~(小学生向け)
- ・場 所: 「こども図書館 おはなしの家」



10月生まれの文学者たち



岩崎 京子（いわさき きょうこ）と「かさこじぞう」

1922年10月26日 東京都生まれ

岩崎京子氏は、子どものころから本が好きでした。そして、恵泉女学園高等部を卒業しました。小説を書き始めたのは、結婚後夫に勧められたからでした。1959年短編「さぎ」で作家デビューをし、日本児童文学者協会新人賞を受賞しました。その後、芸術選奨文部大臣賞、日本児童文学者協会賞など、多くの賞を受賞しました。

「かさこじぞう」は、1977年に、古くから語り継がれていた昔話を岩崎京子再話として、初めて国語の教科書に掲載されました。これ以降、現在まで教科書に掲載されている息の長い教材のひとつです。「かさこじぞう」が教科書に採用されるようになった理由として、当時の民話ブームと民間教育団体が進めていた教材の自主編成運動があるともいわれています。岩崎氏は、絵本のあとがきで、「わたしは、〈*清福〉ということばは、このふたりの姿だと思いました。じいさまとばあさまは、地蔵さまにお正月じたくをいろいろもらいますが、そのたまものにまさるしあわせを、もっていたのだということをよみとってほしい。」と、述べています。

岩崎氏の主な作品として、誠実な人間の姿を流麗な筆で淡々と描く作風で「シラサキ物語」「鯉のいる村」「十二支のはじまり」「赤いくつ」など多数あります。

なお、松谷みよ子氏や瀬田貞二氏などの「かさこじぞう」という絵本もあります。

*清福・精神的な幸福



佐々木 マキと「やっぱり おおかみ」

1946年10月18日 兵庫県神戸市生まれ

佐々木マキ氏は、漫画家・イラストレーター・絵本作家です。少年時代は、貸本屋と映画館に頻繁に通い、杉浦茂氏の漫画のファンでした。大学は、京都市立芸術大学日本画科を中退しました。その後、1966年漫画雑誌「ガロ」に投稿した「よくあるはなし」が掲載され、漫画家デビューをしました。ガロ時代には、ストーリー性重視の漫画と違って、セリフに頼らない実験的な作品を多く執筆し、前衛の実験漫画家として注目されました。

絵本作家としては、1973年「やっぱりおおかみ」で作家デビューをしました。その後、「ムッシュ・ムニエル」シリーズ、「ぶたのたね」シリーズ、「ねむいねむいねずみ」シリーズなど、ナンセンスな味わいのある絵本を多数発表しています。

「やっぱりおおかみ」は、おおかみはもういないと思っている世界に、一匹だけ生き残っていた真っ黒な子どものおおかみが、自分に似た子を探していろいろな町をさまよい歩くという話です。絵本でありながらところどころで、漫画風のコマ割りや吹き出しを使った構成です。

佐々木氏の絵本は、どこかヨーロッパを思わせるような風景が特徴的です。また、ガロ時代に漫画で描いたキャラクターが、絵本に出現することもあります。作家村上春樹氏のデビュー作「風の歌を聴け」の挿絵も、佐々木氏の作品で佐々木氏のファンである村上氏の熱い要望があり実現しました。その後、佐々木氏は、「羊のレストラン」など、多くの村上作品の装幀、挿絵を手掛けています。

□ 図書館員のひみつの本棚 《No.137》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回は、読書の秋にふさわしい本です。絵本でありながら、内容がしっかりした伝記です。また、文章が短いため、とても読みやすい本です。親子が同じ本を読んで、お互い本の感想を話し合うのにぴったりの本です。ぜひ、読んでほしいと思います。

✿ 今月の本

『トマス・ジェファソン 本を愛し、集めた人』

バーブ・ローゼンストック／文 ジョン・オブライエン／絵 渋谷 弘子／訳
さ・え・ら書房 2014年 1512円

♪ あとがき * * * * *

朝夕がとても涼しくなり、窓の外からは虫の鳴く声が聞こえてきます。中学校生徒図書員交流会では、中学生が熱心に活動している姿に、自分の中学生時代を重ね合わせ、自分にもそういう時があったなあと、感慨深いものがありました。また、この図書委員としての経験が、これからの人生できっと何かの役に立つだろうし、きっと、10年後・20年後に、図書委員として活動した日々が、よい思い出になるだろうと思いました。図書委員の生徒に、「がんばれ」と、エールを送ります。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話： 711-4655 FAX： 733-5538

図書館員のひみつの本棚 第137回

今回は伝記絵本です。

『トマス・ジェファソン 本を愛し、集めた人』

バーブ・ローゼンストック／文 ジョン・オブライエン／絵 渋谷 弘子／訳
さ・え・ら書房 2014年 1512円

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高 校☆☆☆ — 般☆☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

トマス・ジェファソン。彼はアメリカ独立宣言を書き、第3代アメリカ大統領を務めた人物です。が、この絵本に描かれているのは、彼のアメリカ独立への多大な貢献ではなく、彼がどんなに本を愛していたかということ。

トマスは生涯に約12000冊の蔵書を集めました。この当時本を1冊持っているだけでも大変贅沢だったというのに、です。どんな内容の本でも、どんな言語の本でも（もちろん彼の知らない言語でも）彼は1冊1冊本を手にとって買いました。そして、読みました。もちろん、この本から得た知識でトマスが多大な功績を残せたことは想像に難くありませんが、この絵本を読むと、彼はそんなことよりも、ただ、ただ、本が好きだったのだということを感じずにはいられません。

トマスの最初の蔵書（300冊～400冊）が火事で焼失したときの彼の言葉。

「ああ、これがお金だったら、こんなに悲しまずにすんだものを」

<子どもに手渡す時のポイント>

この本は絵本ですが、文章や内容は小学校高学年から大人までが対象になると思います。しっかりした伝記を読むのも書かれている人物を深く知ることができて面白いですが、コンパクトにまとめられた伝記絵本は（よい作りになっていることが前提ですが）、書かれている人物の人生のエッセンスがつまっているので、また違った面白さを楽しめます。長い文書は苦手という子や、伝記にハードルを感じている子にもぜひ手渡してあげてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか